

高知県感染症発生動向調査（月報）

2020年4月

高知県感染症情報センター

高知県衛生環境研究所

TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/>

E-mail: 130120@ken.pref.kochi.lg.jp

全国情報

第14週(3月30日～)から第18週(～5月3日)までの5週間に報告の多かった疾患は表1のとおりである。全国における3月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると13.45で3月の28.22に比べて減少した。その理由は、新型コロナウイルス感染症を恐れての自粛や衛生管理によると思われる。実際に上位6疾患のうち、突発性発疹以外は全て減少した。インフルエンザは、9月に流行開始し、42週から本格的な流行期に突入したが2月以降は減少を続け、10位0.26となり、ほぼ終息といっていよう。

1位は感染性胃腸炎で4週間換算値が5.75(3月1位10.74)、2位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で4.22(同位8.54)といずれも減少した。3位が突発性発疹で1.32(同7位1.11)とわずかに増加した。4位と5位は同数0.78で流行性角結膜炎(同4位1.26)とマイコプラズマ肺炎(同5位1.23)がいずれも減少した。6位は水痘で0.59(同6位1.22)と減少した。

〈新型コロナウイルス感染症 COVID-19〉

世界はいま、1918年のスペイン風邪以来、100年に1度の大規模なパンデミックを経験している。

COVID-19の流行は、2019年12月に中国湖北省武漢市で始まり、3月11日にはWHOがパンデミックと認定した。原因ウイルスは、日本では新型コロナウイルスと呼称は一貫しているが、英語表記名は、1月7日、世界保健機関(WHO)は2019-nCoV: Novel Coronavirusと命名したが、2月11日に国際ウイルス分類委員会(ICTV)がSARS-CoV-2: Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2と命名した。

3月11日/4月7日/5月11日と約1か月間隔でみていくと、世界の患者数は12万人/130万人/400万人、死亡者が4,611名/73,648人/281,312人超と増加し、日本の患者数は568人/3,906人/15,798人、死亡者が12人/80人/621人と推移している。

横浜港のクルーズ船(ダイヤモンド・プリンセス号)では、ほぼ全数を対象に調査され、重要な事実が示された。感染者712人のうち、無症状者が331人(46%)を占めていたのである。無症候性感染者が多いことが今回のCOVID-19の特徴であり、彼らが感染源になりうるのならば、感染コントロールはきわめて困難となる。

しかし、日本では、衛生行動の徹底と行動自粛により、オーバーシュート(爆発的感染拡大)を起こさずに踏みとどまっている。感染拡大阻止のために、日本で行われたのは、①手洗い、マスク、咳エチケット、②密閉、密集、密接という「三密」を避ける対応、③緊急事態宣言による社会行動の自粛要請であったが、これまでのところ、欧米各国に比べると死者抑制の効果は相対的に良い。また、「三密」を避ける対応は、よくよく考えれば、飛沫感染する病原体に共通して有効なものであり、今後、感染症の教科書に記載されるべき常識となっていくだろう。

人口規模やPCR検査総数を考慮せずに、感染者数だけで比較すると、感染者数は多い順に、米国1,329,203人、スペイン224,390人、イギリス219,183人、イタリア219,070、ロシア209,377人、ドイツ171,879人、ブラジル155,939人、フランス139,063人、トルコ138,657人、イラン107,603人と続き、日本は33番目の多さである(5月11日現在)。また、死亡者数で比較すると、日本は28位の多さである。感染者の半数近くが無症状者であること、日本ではPCR検査数が各国に比べ少ないとされることから、患者報告数は実数を大きく下回っている可能性はある。しかし、COVID-19の死亡者数をみる限り、現時点までの日本の戦略は大きく間違っていないと評価できる。

一方でPCR件数が増えない理由について取りざたされ、PCRを増やすことが目的であるかのような議論が聞こえてくる。その理由は、PCR検体採取に特化された場所(韓国のドライブスルーのような)がないことである。当初は日本では感染症指定施設でしかPCR検査は行えなかった(のちに協力機関でも実施可能となった)。まず、PCRで感染をチェックして、その後、指定病院で診察を受ける方式が可能になれば、PCR件数は増え患者実数把握につながるし、院内感染も減らせると推測される。実際、高知県内にPCR検体採取に特化した機関が準備されたが、受診の手続きなどから気軽なPCRにはほど遠い。また、唾液を用いたPCRは検体採取時のエアロゾル発生がないので、感度が遜色ないことが確認されたら非常に有用と期待される。

PCR検査実施数が少ないので患者実数の把握が不十分ではあるが、PCR検査陽性率がその地域の蔓延度を示唆すると考えられる。図1に各都道府県のPCR陽性率と患者総数の関連を示す。危険率<5%で有意な相関が認められた。実際、確定診断患者のフォローアップの検査も含まれており、その検査スケジュールも自治体によ

て一律でないので必ずしも正確な指標ではないが、参考にはなる。

岩手県以外の全都道府県で感染者が確認され、都市部では感染蔓延が疑われる現状では、死亡者を増やさないことが最も求められる結果である。そのためには、ハイリスク者すなわち、高齢者、基礎疾患を有する者の感染を予防すること、医療機能を維持し医療崩壊を防ぐことが現下の目標である。そして、治療とワクチンが登場するまでの期間を、いかに凌ぐかである。

また、第二波、第三波、・・・と繰り返し、流行が訪れると推測される。耐え忍ぶための「新しい生活様式」の提案、病原体との共生、経済と感染予防の折り合い方、などについて、ほとんど哲学的とも言える模索が続けられている。

それにしても日本で死者数が抜群に少ない理由は何か？環境因子（衛生環境）なのか、病原体因子（流行ウイルス株の毒力のちがひ）なのか、宿主因子（人種的体質、マスク手洗い等の習慣、まじめな気質等の国民性）なのか、医療レベルのちがひなのか？医療崩壊を起こしていない点は1つの理由だが、様々な要因について検討し答えを出していく必要があるだろう。

＜風疹＞

2018年からの風疹流行はまだ続いており、予防接種機会がなかった40～57歳の男性を対象に、抗体検査を前置きした上での定期接種（第5期と呼ばれ、麻しん風しん混合ワクチンが使用される）が2019年4月から実施中である。風疹は2018年に累積で2,941例、2019年には2,306例が報告された。2020年第11週までの報告数は69人であったが第12～16週の間増加は7人とどまった。コロナ自粛の副産物として、流行は終息に向かっている。

表1 各週定点当たり報告数（全国）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	18週	計
1	感 染 性 胃 腸 炎		1.87	1.61	1.48	1.20	1.03	7.19
2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.47	1.26	1.09	0.82	0.64	5.28
3	突 発 性 発 疹		0.32	0.34	0.32	0.36	0.32	1.66
4	流 行 性 角 結 膜 炎		0.26	0.23	0.19	0.17	0.12	0.97
	マ イ コ プ ラ ズ マ 肺 炎		0.22	0.23	0.18	0.23	0.11	0.97
6	水 痘		0.20	0.17	0.15	0.11	0.11	0.74

県内情報

全国との対比（定点当たり報告数） 高知県の4月の上位6疾患の合計は4週間に換算すると13.74で3月の22.71に比べて減少した（表2）。インフルエンザは、全国よりも少し遅れて47週から増加に転じ流行期に突入した。本県の報告数は1月に全国1位となり一気に増加したが2月以降は減少し4月に終息した。

1位はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎で4.40（3月2位8.13）と減少したが、全国と同等だった。2位は感染性胃腸炎で4.26（同1位8.17）と減少し、全国よりも少なかった。3位は突発性発疹で1.72（同8位1.03）と増加、4位はマイコプラズマ肺炎で1.41（同5位1.51）と横ばい、5位は水痘で1.06（同10位0.53）と増加、6位は伝染性紅斑で0.90（同6位1.40）と減少したが、いずれも全国よりも多かった。

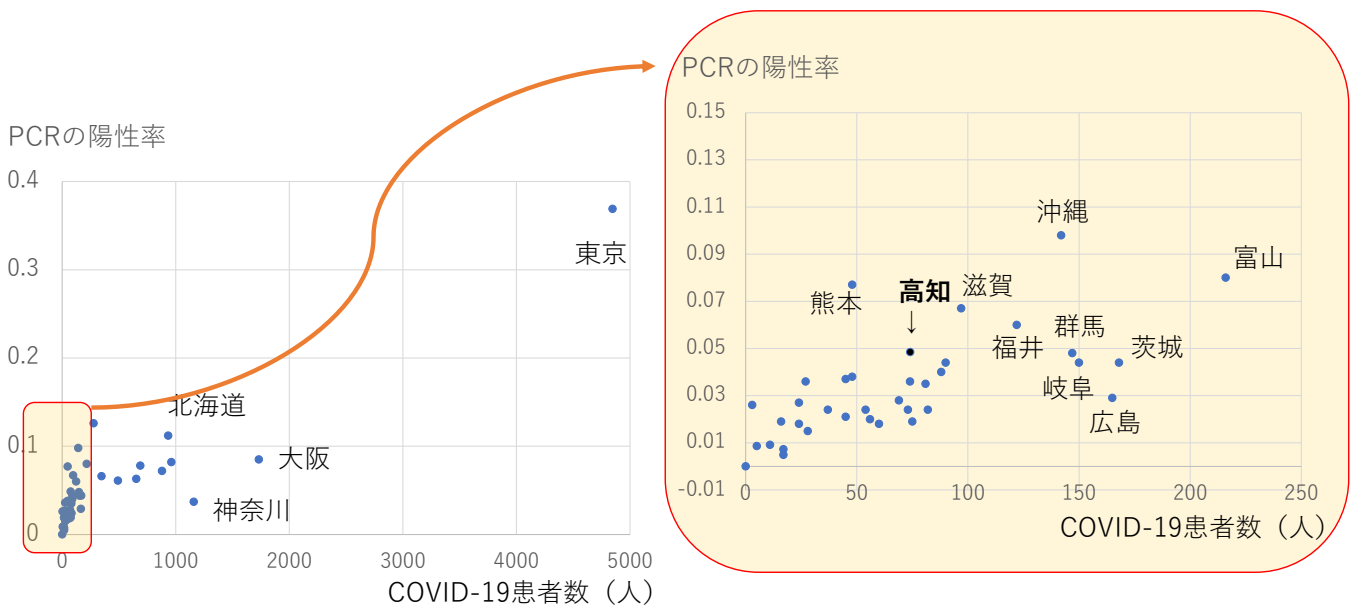
＜新型コロナウイルス感染症 COVID-19＞

COVID-19は、高知県では、2月29日～3月8日に12例が報告され（うち、海外渡航者1名、感染源不明は4名）、その後19日間は報告が途絶えていた。県内患者発生の第2波は3月27日に始まり、連日新規患者が報告され4月29日までに62例が加わり、合計74例になった（表3）。4月16日に全国に緊急事態宣言が発せられた。自粛の効果で4月29日から5月12日現在まで新たな患者は報告されていない。5月7日以降も全国緊急事態宣言は継続されたが、自治体毎に独自の緩和が許容された。高知県は5月14日に緊急事態制限が解かれ、学校の再開、公共機関、飲食等の再開に動いており、今後の患者発生の動向が注目される。

表2 各週定点当たり報告数（高知県）

No	疾病名	週	14週	15週	16週	17週	18週	計
1	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.32	1.68	1.43	0.61	0.46	5.50
2	感染性胃腸炎		1.29	1.21	0.96	1.04	0.82	5.32
3	突発性発疹		0.43	0.29	0.36	0.50	0.57	2.15
4	マイコプラズマ肺炎		0.00	1.00	0.38	0.13	0.25	1.76
5	水痘		0.54	0.29	0.32	0.07	0.11	1.33
6	伝染性紅斑		0.32	0.11	0.29	0.04	0.36	1.12

図1. COVID-19 都道府県別PCR陽性率と患者数



陽性率については厚生労働省の公表しているPCR検査陽性者数／PCR検査実施人数により算出

表3高知県の発生状況（4月1日～4月30日）

	公表日時	年代・性別	管轄保健所	職業	備考
18例目	4月1日	70歳代・女性	高知市	団体職員	第13・16例目の濃厚接触者
19例目	4月1日	90歳代・女性	高知市	無職	
20例目	4月1日	30歳代・男性	幡多	警察官	第17例目の同僚
21例目	4月2日	50歳代・女性	高知市	会社員	第13例目の濃厚接触者
22例目	4月3日	50歳代・男性	高知市	会社員	
23例目	4月3日	40歳代・男性	幡多	介護職員	
24例目	4月4日	30歳代・男性	高知市	警察官	第17・20例目の濃厚接触者
25例目	4月4日	80歳代・女性	高知市	無職	第22例目の濃厚接触者
26例目	4月4日	70歳代・男性	高知市	農業	
27例目	4月5日	60歳代・女性	高知市	無職	第13・16・18・21例目の濃厚接触者
28例目	4月5日	40歳代・女性	幡多	無職	第23例目の濃厚接触者
29例目	4月5日	70歳代・女性	高知市	食品販売業	第26例目の濃厚接触者
30例目	4月5日	20歳代・女性	高知市	看護師	第26例目の濃厚接触者
31例目	4月5日	50歳代・女性	高知市	食品販売業	第26例目の濃厚接触者
32例目	4月5日	10歳代・女性	高知市	専門学校生	第26例目の濃厚接触者
33例目	4月5日	30歳代・女性	高知市	居酒屋勤務	
34例目	4月6日	60歳代・女性	幡多	飲食店経営（バー）	
35例目	4月6日	20歳代・女性	中央東	アルバイト	第30例目の濃厚接触者
36例目	4月6日	20歳代・男性	高知市	飲食店勤務	第33例目の濃厚接触者
37例目	4月7日	40歳代・女性	幡多	介護職員	第23例目と同じ職場
38例目	4月7日	20歳代・男性	幡多	教員	
39例目	4月8日	40歳代・女性	高知市	会社員	
40例目	4月9日	40歳代・男性	高知市	飲食店経営	
41例目	4月9日	70歳代・女性	高知市	無職	
42例目	4月9日	60歳代・女性	高知市	無職	
43例目	4月9日	40歳代・女性	高知市	病院事務職員	
44例目	4月9日	10歳代・男性	高知市	アルバイト	39例目の濃厚接触者
45例目	4月9日	20歳代・女性	高知市	社会福祉法人職員	39例目の濃厚接触者
46例目	4月9日	70歳代・女性	高知市	無職	
47例目	4月9日	50歳代・女性	高知市	看護師	
48例目	4月9日	40歳代・女性	幡多	飲食店従業員	34例目の濃厚接触者
49例目	4月9日	10歳未満・女性	幡多		34例目の濃厚接触者
50例目	4月10日	30歳代・男性	高知市	銀行員	
51例目	4月10日	60歳代・男性	高知市	会社員	34例目の濃厚接触者
52例目	4月10日	20歳代・女性	高知市	学校法人職員	41例目の濃厚接触者
53例目	4月10日	70歳代・男性	幡多	自営業	34例目の濃厚接触者
54例目	4月10日	50歳代・女性	中央東	歯科衛生士	26例目の接触者
55例目	4月12日	30歳代・女性	高知市	会社員（育休中）	50例目の濃厚接触者
56例目	4月12日	10歳未満・男性	高知市		50例目の濃厚接触者
57例目	4月12日	80歳代・女性	高知市	無職	
58例目	4月12日	50歳代・男性	幡多	会社員	
59例目	4月12日	50歳代・女性	中央西	自営業	50例目の濃厚接触者
60例目	4月12日	50歳代・男性	幡多	運転手	
61例目	4月15日	20歳代・女性	高知市	無職	
62例目	4月15日	70歳代・女性	幡多	無職	34例目の濃厚接触者
63例目	4月17日	50歳代・男性	高知市	教員	
64例目	4月18日	60歳代・男性	幡多	自営業	
65例目	4月19日	60歳代・女性	幡多	事務職	64例目の濃厚接触者
66例目	4月19日	30歳代・女性	幡多	事務職	64例目の濃厚接触者
67例目	4月19日	10歳未満・男性	幡多		64例目の濃厚接触者
68例目	4月19日	40歳代・男性	幡多	会社員	
69例目	4月20日	60歳代・男性	幡多	団体役員	64例目の濃厚接触者
70例目	4月22日	40歳代・男性	幡多	会社員	
71例目	4月23日	50歳代・男性	高知市	無職	
72例目	4月25日	50歳代・男性	中央西	医療法人職員	59例目の濃厚接触者
73例目	4月26日	50歳代・男性	高知市	飲食店従業員	
74例目	4月29日	50歳代・女性	高知市	会社員	50例目の濃厚接触者

2. 全体の傾向

麻しん、風しんの報告無し。

3. 主な疾患の発生状況

3月に続いて4月もCOVID-19流行のため、それ以外の病原体検出が中断されており、データなしとなっている。

1) インフルエンザ

報告数 4名 (3月 89名)。2019年9月に流行が始まり、10月は減少に転じていたが、47週から全国よりも遅れて増加に転じ、その後増え続けて流行期に入った。定点当たりの数字は、12月は都道府県別では下位から3番目であったが、1月は一気に全国1位となった。本県の流行は遅れて始まったが規模は他県よりも大きかったことを意味している。12月は同時期としてはAH1pdm2009がはじめて流行した2009年に次いで2番目の大きな数字であったが、1月は例年並み、2月は過去10年で2番目に少なく、3月、4月は最も少ない報告数で終息した。総括すると、2019-20年のインフルエンザは、主としてAH1pdm2009による早い流行であったが規模は小さかった。

高知市、中央西から報告された。

2) 咽頭結膜熱

報告数 18名 (3月 10名)。例年並の報告数である。安芸以外から報告があり、特に須崎、高知市、幡多から多く報告された。

3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

報告数 154名 (3月 244名)。2019年9-11月は、この時期として過去10年で最高の報告数で推移し、12月は2015年に次いで2番目、2020年1月は最多、2月は2番目の多さだったが、3月4月と減少し例年並みに落ち着いた。県下全域から報告され、特に高知市、須崎、中央西から報告が多かった。

4) 感染性胃腸炎

報告数 149名 (3月 245名)。もともと少ない数字で推移し、2月に増加して平年並みとなっていたが、3月4月と、過去10年で最低の報告数であった。県下全域から報告があり、幡多、高知市、中央西から多く報告されたが地域的偏りは小さい。

5) 水痘

報告数 37名 (3月 16名)。2014年10月からの予防接種定期化の効果で少ない数で推移している。県下全域から報告され、特に中央西から多く報告された。

6) 手足口病

報告数 30名 (3月 33名)。2019年2月に流行が終息していたが、5月から流行が始まり大流行となった。8月以降は減り続けていたが12月は横ばい、1月、2月と減少を続け終息に向かうかとみえたが3月はわずかに増加、4月は横ばいだった。高知市、中央東、幡多から表記の順に報告が多かった。

7) 伝染性紅斑

報告数 31名 (3月 42名)。2019年7月以降は多い報告数で推移している。特に10月は過去10年間で最大の報告数(時期を問わず)を記録した。県下全域から報告されたが、特に安芸、幡多、須崎の順に多く報告された。

8) 突発性発疹

報告数 60名 (3月 31名)。想定内の変動で推移している。

9) ヘルパンギーナ

報告数 2名 (3月 3名)。2019年は6月から流行し、8月に減少に転じていたが、9月は再び増加し、10月以降減少した。高知市と中央西から各1名の報告があった。

10) 流行性耳下腺炎

報告数 10名 (3月 17名)。須崎、安芸、高知市から表記の順に多く検出された。

11) RSウイルス感染症

報告数 20名 (3月 49名)。2019年も前年同様に流行開始が早く、8月の報告数は2017年以降、270名、126名、233名と多い数字で推移し、従来に比べて流行時期が1カ月程度早まる傾向が続いた。11月は激減したが12月以降は小幅な増加がみられたが3月4月と減少した。高知市と中央東から表記の順に多く報告された。

12) 流行性角結膜炎

報告数 1名 (3月 0名)。高知市から1名のみが報告された。

13) 細菌性髄膜炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 0名 (3月 0名)。1年に10名前後の報告で推移していたが、2017年6名、2018年5名、2019年2名と減少傾向である。乳児を対象としたHibと肺炎球菌ワクチンの定期接種がはじまって以降はこれらを原因とする小児例の報告は皆無であり、成人例も近年減少している。

14) 無菌性髄膜炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 0名 (3月 0名)。の報告疾患) 年間20-30名台の報告数で推移していたが、2017年7名、2018年1名、2019年5名、2020年は0名と報告が少ない。

15) マイコプラズマ肺炎 (基幹定点の報告疾患)

報告数 14名 (3月 12名)。高知市、中央東から報告された。

基幹定点の月報疾患

16) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

報告数 14名 (3月 23名)。平年並の推移である。中央東、高知市、安芸の順に多く報告された。

17) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

報告数 0名 (3月 0名)。2014年は計4例、2015年、2016年は各1例、2017年は2例、2018年は1例、2019年は2例の報告があり、2020年は0例である。

高知県感染症発生動向調査部会
前田 明彦

高知県における月別全数報告疾患 (令和2年4月)

類型	病名	報告月				総計
		1月	2月	3月	4月	
2	結核	5	5	8	3	21
4	重症熱性血小板減少症候群			1	1	2
	日本紅斑熱				5	5
	レジオネラ症	1				1
5	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1		2		3
	急性脳炎		1			1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1				1
	後天性免疫不全症候群	2				2
	侵襲性肺炎球菌感染症	5	1	2		8
	水痘(入院例に限る)	1				1
	梅毒	1		3	3	7
	破傷風		1			1
	百日咳	9	8	7	4	28
指定感染症	新型コロナウイルス感染症			12	36	48
	総計	26	16	35	52	129

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

2020年

4月

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ			3	1			4	89	87
小児科	咽頭結膜熱		1	9	1	3	4	18	10	18
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	16	74	20	16	24	154	244	377
	感染性胃腸炎	9	33	53	15	7	32	149	245	815
	水痘	1	6	11	13	2	4	37	16	22
	手足口病		5	24			1	30	33	7
	伝染性紅斑	10	1	5	1	3	11	31	42	13
	突発性発疹	2	12	31	2	6	7	60	31	35
	ヘルパンギーナ			1	1			2	3	2
	流行性耳下腺炎	1		4		5		10	17	11
	RSウイルス感染症		5	15				20	49	75
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1				1		5
STD	性器クラミジア感染症			2				2	2	2
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		2					2		
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎		1	13				14	12	9
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスであるものに 限る)			1				1		28
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1	3	10				14	23	30
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌感染症									
計		28	85	257	54	42	83	549	816	1,536
前月		27	136	407	80	61	105			
前年同月		64	318	677	89	123	265			
小児科定点数		2	7	9	3	2	5			

高知県感染症情報 月報(63定点医療機関)

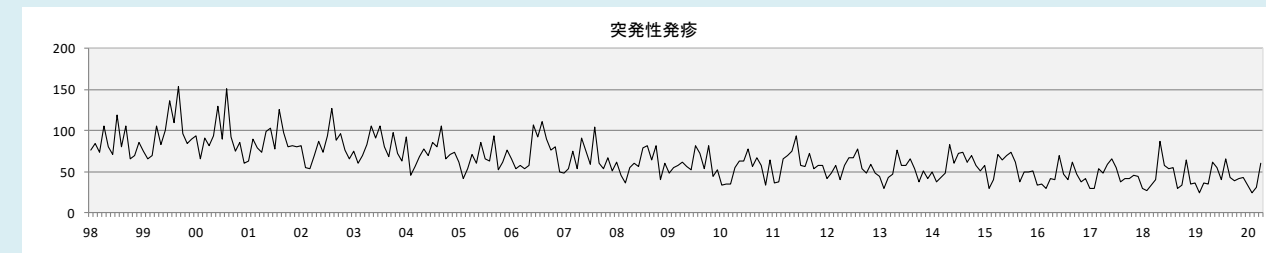
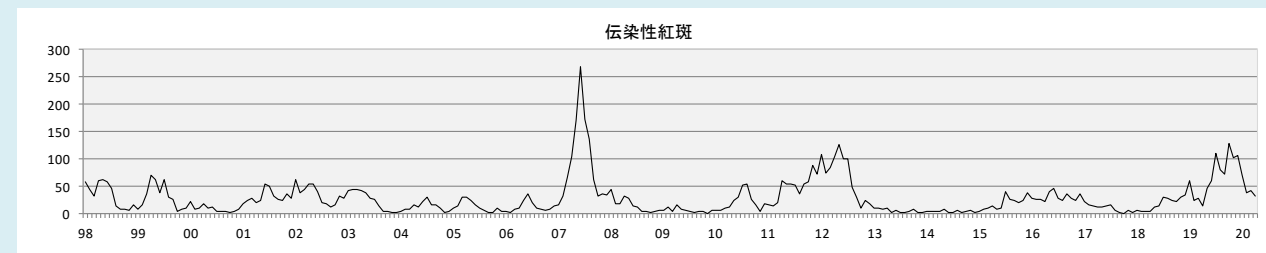
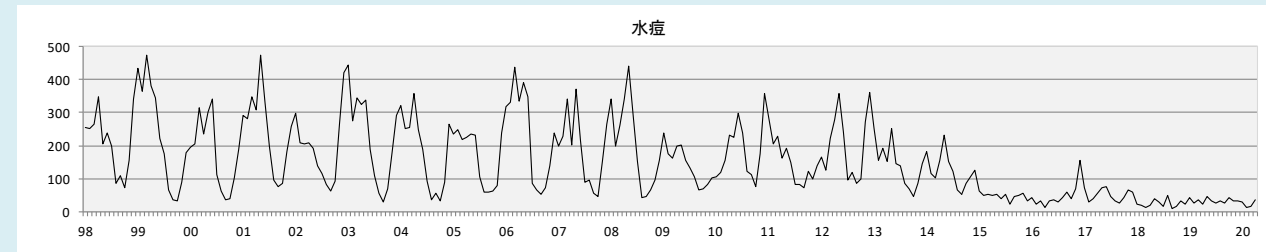
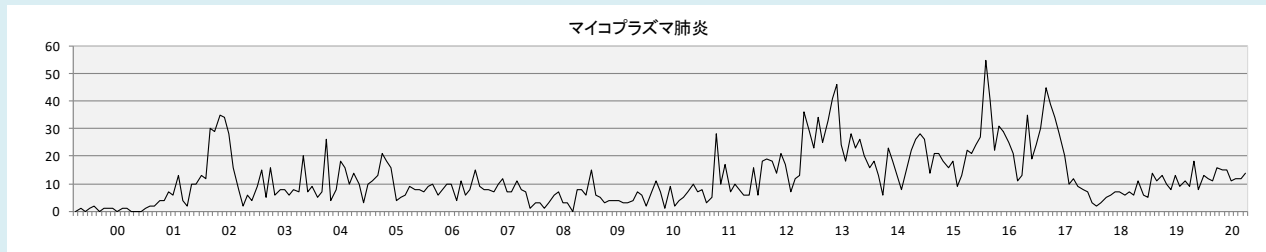
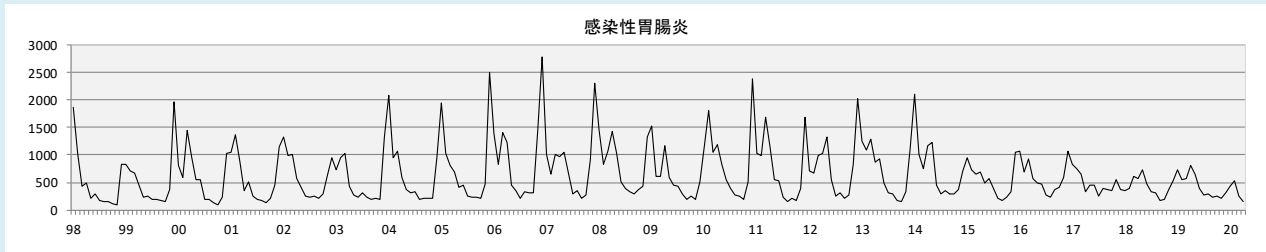
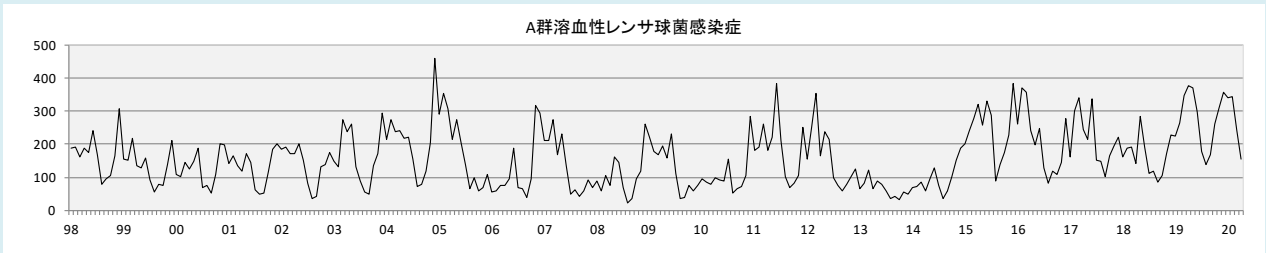
2020年

4月

定点当たりの人数

定点名	疾病名	保健所						計	前月	前年同月
		安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多			
内科・小児科	インフルエンザ			0.21	0.20			0.09	1.86	1.82
小児科	咽頭結膜熱		0.14	0.99	0.33	1.50	0.80	0.64	0.32	0.59
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.00	2.28	8.23	6.68	8.00	4.80	5.50	8.13	12.57
	感染性胃腸炎	4.50	4.72	5.89	5.00	3.50	6.40	5.32	8.17	27.17
	水痘	0.50	0.85	1.22	4.33	1.00	0.80	1.33	0.53	0.73
	手足口病		0.71	2.67			0.20	1.06	1.10	0.23
	伝染性紅斑	5.00	0.14	0.55	0.33	1.50	2.20	1.12	1.40	0.44
	突発性発疹	1.00	1.73	3.45	0.66	3.00	1.40	2.15	1.03	1.16
	ヘルパンギーナ			0.11	0.33			0.08	0.10	0.06
	流行性耳下腺炎	0.50		0.44		2.50		0.36	0.57	0.37
	RSウイルス感染症		0.71	1.66				0.72	1.64	2.50
眼科	急性出血性結膜炎									
	流行性角結膜炎			1.00				0.33		1.67
STD	性器クラミジア感染症			1.00				0.33	0.33	0.33
	性器ヘルペスウイルス感染症									
	尖圭コンジローマ		1.00					0.33		
	淋菌感染症									
基幹	細菌性髄膜炎									
	無菌性髄膜炎									
	マイコプラズマ肺炎		1.00	2.60				1.76	1.51	1.14
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									
	感染性胃腸炎 (病原体がロタウイルスである ものに限る)			0.20				0.13		3.51
	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	1.00	3.00	2.00				1.75	2.88	3.75
	ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症									
	薬剤耐性緑膿菌 感染症									
小児科定点分計		13.50	11.28	25.42	17.86	21.00	16.60	18.37	24.85	47.64
前月		10.75	18.43	32.71	24.67	30.00	20.66			
前年同月		23.00	43.57	56.12	28.60	56.50	51.61			

注目される疾患別月別推移



類型	病名	報告年																			総計			
		1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017		2018	2019	2020
2	結核									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	21	1771
	計									131	149	163	156	192	132	128	138	129	122	110	97	103	21	1771
3	コレラ	1					1						1											3
	パラチフス	2																						2
	細菌性赤痢	11	4	2		3	1	2	2											2				27
	腸チフス		1						1									1				1		4
	腸管出血性大腸菌感染症	11	8	18	15	2	10	9	3	25	4	19	12	3	8	3	5	2	34	2	4	9		206
	計	25	13	20	15	5	12	11	6	25	4	19	13	3	8	3	5	3	34	4	4	10		242
4	A型肝炎	3	5	3	2	4	2	1	4	1			3					3	1				2	34
	Q熱	1	1	2					1															5
	オウム病			1		1														1				3
	つつが虫病		9	5	2	4	5	6	7	2	5	4	2	5	8	3	3		4	11	2	3		90
	マラリア								2					1								1		4
	レジオネラ症		2		1		1				9	7	3	6	9	2	4	4	3	6	9	7	1	74
	日本紅斑熱	15	3	14	7	14	13	10	3	1	6	7	15	4	1	7	4	13	6	13	10	5		177
	日本脳炎	1	1	1					1			1	1											6
	レプトスピラ症										1		4	2	1					1				9
	E型肝炎											1		1								2		4
	デング熱											1				3	2	1				2		9
	重症熱性血小板減少症候群															3	11	3	7	5	5	9	2	45
	計	20	21	26	12	23	21	18	17	4	20	19	18	31	24	13	27	15	28	30	29	36	8	460
5	ア메ーバ赤痢		2	2	2	1	2	2	2	1		3	2	2	3		7	3	2	5	3	3		47
	ウイルス性肝炎	11	4	3	5	2	2	3	5	5	4	3	3			3		1		2	1	1		58
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症																7	19	21	22	21	20	3	113
	急性弛緩性麻痺																					1	2	3
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	1	4		4	3	3		6		1	3				2			2	1	1		32
	ジアルジア症		1	2	1									1	1						1			5
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症			1								1						1		1	1			8
	急性脳炎								1	1	2	5	1	3	1		1	1	1	1		2	1	21
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症			1	1	1				1		1	1	1	3		1	1	3	5	6	2	1	27
	後天性免疫不全症候群	2		2		2	4	2	3	6	3	3	2	3	3	2	7	6	9	6	9	1	2	77
	侵襲性インフルエンザ菌感染症																1	5	3	4	7	3		23
	侵襲性肺炎球菌感染症															1	4	12	16	18	14	22	8	95
	水痘(入院例に限る)																	2	1	1	3		1	8
	播種性クリプトコックス症																		1	3	5			9
	髄膜炎菌性髄膜炎									1														1
	破傷風		3	2	2	1		1	1	2	3	1	1	1	1		4	3	3	1		2	1	33
	梅毒	2	3	4	4	12	9	6	27	6	5	5	2	4	10	8	4	11	12	23	19	20	7	203
	百日咳																					173	172	373
	麻しん									5													5	5
	風しん									1	1				4	9	1				3			19
	計	16	14	21	15	23	20	17	39	29	25	23	14	15	29	20	40	63	72	94	268	251	52	1160
指定	新型コロナウイルス感染症																							48
	計																							48
新型	新型インフルエンザ																							34
	計																							34
動物	鳥インフルエンザ														1									1
	計														1									1
	総計	61	48	67	42	51	53	46	62	189	198	258	201	242	193	164	210	210	256	238	398	400	129	3668